

きらり

酒田市農業委員会報 No.29



「最盛期を迎えた葉ボタンの最終調整作業」 ～袖浦・坂野辺新田地区～

特集

農業の元気から「夢あふれる酒田」へ (2、3面)

～新春インタビュー 本間市長 酒田農業を語る～

植物工場の可能性を探る (4面)

認定農業者会議との意見交換会 (5面)

新規就農者の紹介 Fresh Farmer はじめの一步 (6面)

若手農業者リレーエッセー かぜ

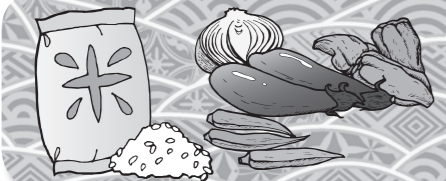
農業一筋 短信 (7面)

酒田の“旬”を食す ー冬ー (8面)

25年新春号

特集

農業の元気から「夢あふれる酒田」へ



新春インタビュー 本間市長 酒田農業を語る

今回は新春企画として、昨年一〇月に新市長に就任した本間正巳市長に、農業に対する想いや農業施策の考えなどについて語っていただきました。

―昨年一〇月に新市長に就任され、約二か月が経過しましたが、まずは市長自身の農業に対する考え方や想いをお聞かせください。

「魅力あふれる農業の振興」

農業は本市の基幹産業です。農業に元気がなければ、まちに賑わいが生まれてこないと思っています。農業所得を増やしていくため、農業経営の効率化、集約化を支援するとともに、米に加えて園芸等への取り組みを拡大させていきたいですね。

次に担い手対策ですが、特に、農業の後継者を増やしていくためには、農業収入を増加させ、儲かる農業にしていく必要があります。そのためには、水稲に畜産や園芸をプラスした複合経営を拡大する必要があります。また、本市には恵まれた自然のおかげで、全国に誇れる農林



水産物が数多くあります。農林水産物をただ売るのでなく、付加価値を付けるために生産から加工、商品開発と流通、販売を含めた農業の六次産業化や農商連携、観光と結びつけたグリーンツーリズムを積極的に促進したいと思っています。この中では、特に、女性農業者の視点や活躍に期待しています。

「地域・中山間地振興」

八幡地域・松山地域・平田地域は、鳥海山をはじめそれぞれ

ことで、法人化を推進したいと考えます。法人化することにより、生産部門のみならず、商品開発や販売、加工などの六次産業化を含めた事業展開が可能となり、農業所得の向上や雇用の受け皿になると考えます。

「担い手対策として」

農業経営がしつかりし、収益が上がっている組織には担い手が育っています。新規就農者も増加する傾向がありますから、



年頭のあいさつ

―新年あけましておめでとうございます。昨年豪雪や爆弾低気圧による多くの被害が発生し、夏の猛暑など自然の力を見せつけられた年でした。そんな中でも水稲は農家の皆さんの日々の管理で作況指数が一〇二となり、一安心することができました。今年も「人・農地プラン」の話し合いの促進や、遊休農地対策、担い手の確保、PPP交渉参加断念へ向けての運動などを展開していくと共に、地域農業の継続と振興に向け、委員・職員一丸となって頑張ります。



酒田市農業委員会 会長 五十嵐 直太郎

集落営農組織の法人化と認定農業者の大規模経営化、複合経営化を強力に進めることが担い手対策だと考えます。

「規模拡大に向けて」

各地域では、将来の地域農業の設計図と言うべき、「人・農地プラン」の作成を進めています。本市でも、このプランを軸として、農業委員会との連携により規模拡大に向けた農地集積を推進していきます。

「売れる米づくり」

黒びようせん推進事業などにより、酒田産米のブランドを高める支援のほか、JAとの元氣協定に基づいて、トップセールスによる酒田産米のPR戦略を強化します。

に豊かな自然環境や魅力ある歴史文化を有しています。しかしながら、人口減少には歯止めがかからない状況で、一部では集落機能の維持、買い物などに支障が出ている地域があります。地域が元氣であるためにも農林業の振興が必要であると考え

ています。地域で策定したビジョンに基づき、農山村地域の活性化に取り組みたいと思います。特に観光と農林業をマッチングすることにより交流人口の増加、六次産業化、農商連携による特産品開発など地域資源を有効に活用した産業振興を進め、魅力ある地域づくりを進めていきたいと思っています。

「酒田農業の現状、課題をどのように捉えていますか」

―酒田農業の現状、課題をどのように捉えていますか。

農業出荷額は伸び悩み農業所得が減少している状況にあります。このことは、本市の農業が長い間米中心の農業であったため、転作作物による所得の確保や園芸作物への取り組みが進まなかったことが要因だと考えます。全国に誇れる本市の柱となる園芸品目を育てることが必要

「米中心からの脱却」

農業出荷額は伸び悩み農業所得が減少している状況にあります。このことは、本市の農業が長い間米中心の農業であったため、転作作物による所得の確保や園芸作物への取り組みが進まなかったことが要因だと考えます。全国に誇れる本市の柱となる園芸品目を育てることが必要



転作田を活用したニンジン栽培

「規模拡大と経営安定化」

認定農業者の方からお話しを伺う機会があり、地域の担い手への規模拡大が進まない、農地の団地化が進まないといったことをお聞きしました。

近年の天候不順による収量、品質への不安感や耕作放棄地が増加している現状で、担い手への農地の集積により経営の安定を図る必要があると考えています。

「農業者の高齢化と後継者不足」

農業者で一番多い年齢層は五五～六四歳です。二〇～四〇歳の農業者がまだまだ少ないことから、若い担い手の確保が重要です。―それでは現状、課題を踏まえての具体的な農業施策の方向についてお聞かせ下さい。

「集落営農組織の法人化」

集落営農組織に対する経営や周年栽培への取組み支援を行う



さかた中町(まんなか)マルシェの移動販売

「転作田の活用」

また、国外へ向けた米の輸出についても支援していきます。

転作田での園芸振興により、米以上の農業収入の確保増大を図っていきたくと考えています。そのためには、「カレイライスプロジェクト(土地利用型作物導入支援事業)」の実証を含め、本市の気候や稲作との作業体系に適合する品目を選定し、産地化の形成を含めた取り組みを推進していきます。

「複合経営の推進」

食育と地産地消のためには少量多品目生産であり、ブランド化や特産化のためには少量少品目化が必要です。足腰の強い酒田農業を確立するために、それぞれの役割に基づいた振興と支援を行っていきます。今後とも農業経営の安定化を



聞き手：五十嵐直太郎会長、佐藤好博会長職務代理者、佐藤六雄会報委員長

高品質・高収量・計画的生産を目指して



人工光を利用したレタスの10段栽培

植物工場の可能性を探る

食料自給率の向上や安定生産、食の安全・安心といった観点から社会の関心も高く、国でも積極的な施策を展開し推進している「植物工場」。最先端の試験栽培が行われている千葉大学で会報委員が取材に行ってきました。

《千葉大学植物工場》

この植物工場は、農林水産省モデルハウス型植物工場実証・展示・研修事業で設置され、太陽光利用型（トマト栽培）が5棟、人工光利用型（レタス栽培）が二棟あります。

野菜等の食料を安定的に周年生産する植物工場を国内に普及・拡大させることを目的に、勘に頼らないデータに基づく科学的栽培技術の確立を目指しています。

《日本の現状と課題》

日本で植物工場の普及が他国に比べて遅れている原因は、気候が極端に暑くも寒くもなく、降雨も十分にあるなど栽培環境に恵まれていることから、そこそこの収量が得られ、数年に一度の不作があっても生活が継続できたからとのことでした。

【課題】

- ① 低コストで規格化された高機能性ハウスの開発
- ② 環境・栽培管理コンピュータの開発
- ③ 高収量品種の育成
- ④ 夏の高温対策と冬のエネルギー確保



面積は1棟1,000～2,500㎡(トマト)

《作物の環境を科学する》

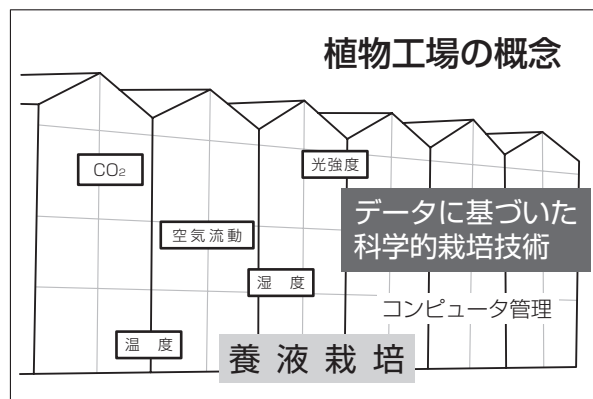
多収量のために作物の光合成を促進するには、光と温度、湿度、二酸化炭素の他に若干の風が必要だということ、軒高5mの施設は、光透過率の高いフッ素系フィルムを使い、灯油を焚き二酸化炭素を発生させて蓄熱し、必要に応じて温湯パイプで暖房しています。足りない熱は、ヒートポンプで補い、夏は夜間冷房としても使います。養液栽培で棟換気、ファンも各所に設置し、数多くのセンサーと各要素をモニタできるコンピュータ制御になっています。

《ビジネス農業・儲かる農業》

出資した大小企業がいくつものグループに分かれて、様々な栽培方法でトマトの高品質、多収量を目指して取り組んでいます。また、テレビでよく目に



植物工場のトマトの味は？



する人工光利用のレタスにも挑戦していましたが、技術や情報の共有が図られていないので、発展が望めないと危惧していました。農家にとっては脅威でもあるが、まだまだ研究・競争段階にあると感じました。

(五十嵐亨委員)

農業委員会活動レポート

酒田市農業の活性化に向けて熱く語る！

～認定農業者会議との意見交換会～

去る一月二二日、酒田市認定農業者会議代表の一名と農業委員代表一二名により、活発な意見が交わされました。その内容の一部を紹介します。

《農地集積のあり方》

★水田農業は機械化されており、体が続く限り現役で働きたいという人が大部分だ。

★農地を委託している人の多くが親戚等への委託で、なかなか今後の中心となる経営体（個人・法人・集落営農）に集まらない。

★地域によっては、受け手となる経営体がない地域もある。

★「人・農地プラン」は、現在各地域で話し合いが進められているが、中心となる経営体について話し合う絶好の機会になる。

★規模拡大が進むと、農業に携わる人が少なくなり、地域活動が低迷することが心配だ。



《農産物の産地化と特産化》

★何が酒田の気候風土に合う新品目なのか、既存の品目を産地化して特産品とするのか、個人では良く分からず、どうしてもJAや行政の主導が必要だ。

★特産化商品が、市場・消費者の信頼を得るには、五十年間JAや行政が協力しての支援が必要だ。

★山形セレクションのように、酒田セレクションはできないか。

★個人が加工用の大きな施設を持つことは難しいので、JAか第三セクターでの計画が必要だ。

★やるなら日本一を目指す必要がある。酒田市のストックが日本一であることを知らない人が多い。

《地域農業を支える

担い手育成》

★地域農業の担い手とは、「地域に必要な人」と言うことなので、個人・法人・集落営農組織とも、個々の営農・経営の発展だけでなく地域との結びつきも考える必要がある。

★行政・JA・地域が連携して担い手のニーズに合った支援が必要だ。

★子供たちに、土をもっと触らせるべきだ。

★後継者が少ないことを考えると集落営農の法人化は必要。

(伊藤正明委員)



かけがえない
農地を
次世代へ

農地
パトロール

農業委員会では、強化月間に設定されている八月から一月に農地利用状況調査を実施し、雑草等が繁茂した状態で適切な農地管理ができていない遊休農地を把握しました。

今後は、調査結果を検討の上、農地としての適正管理（作付・草刈・耕起・貸付）のお願いと意向調査を実施する予定です。

農地を一度荒廃させると、良好な状態に戻すにはたいへんな時間と労力が必要になります。遊休農地の解消のため、農業者の皆さんのご協力をお願いします。



Fresh Farmer はじめの一步

～ 新規就農者の紹介 ～



ネットワークの

ありがたさ

上田地区・吉田新田
伊藤 智和

現在、農家や農業を取り巻く環境は厳しいものがあります。若い農業の担い手は専業農家として存続し続けることが困難で、私も以前は農業とは全く違う企業で働いていました。ある時、父が所有している農地や他から請け負っている耕地を本格的に高齢化する前に私に託したい気であることを知り、小さい頃から身近であった農業に携わることを決めました。

農業に関する基本的な知識や技術は父を含めて地域の多くの方々から学んでいます。無人ヘリコプター散布の技術を磨く機会もいただきました。最近には特に乾田直播（V溝播種）の技術を勉強しています。現行では慣行栽培が主流ですが、将来的には乾田直播を拡大することができれば低コストで農家を維持していくことが可能になると考えています。これまでの世代が築

き上げてきた確かな見識に、私たち若い世代のフットワークの軽さが加わることで、農業の未来がより明るいものになればと思っています。そして、一生懸命に農業に携わっていると、同じく熱意をもって農業に関わっている多くの方々に次々とつながってきていくことも魅力です。この巡りあわせや縁をこれから大切にしたいものです。

今後、TTPを始めとして農家にとって厳しい環境はまだまだ続くかもしれません。また、天候を相手にする農業は完璧なマニュアルがあるわけではなく、思う通りにいかないことばかりです。それでも安心安全な農作物を市場に出していることを誇りにして、築き上げてきたネットワークを大事にしながら農業に携わっていききたいです。



かせい

～ 若手農業者リレーエッセー～



私は農業を始めて三年目の稲作と切り花を主体とした農家です。家業は稲作だったのですが、ひねくれ者の私は親と違った道を進みたくて切り花栽培を始めました。いろいろな切り花に挑戦してはみたものの技術不足、忍耐不足、経営力不足など、まあ全然儲かりませんでした。いくら良い花を作ろうとも必要でなければ売れない。買い手が必要なものを必要な時期に出せば儲かるよ。当たり前の事なのですがそれが難しいんですよ。

農業青年の仲間たちと、どうすれば利益を出していけるのか意見を出し合い頑張ってきました。

『アラフォーの挑戦』

亀ヶ崎 阿波一 成

だが、やはり現状が打開できずに月日ばかりが流れて、気付いた時には就農してから一〇年が経っていました。農業以外の仕事をしている仲間たちは頑張つて出世している。そんな焦りばかりが先に立ち、肝心な農業は空回りする一方でした。

そんな時に私たちの花を必要とってくれる人たちと出会いました。これがターニングポイントとなり、あれよあれよという間に契約栽培まで運び、農業Ⅱビジネスという今まで私たちが触れてこなかった農業スタイルになりました。これを機に仲間たちと農事組合法人を設立し今に至ります。今までは一人でガラガラやってきた仕事も、会社として計画を立てて行うことによりスムーズに作業が運び、今後は面積を拡大するなどの事業拡大を検討中です。えっ？ 今は儲かっているかって？

それは皆様のご想像にお任せします！

農業

本楯地区・刈屋

小松 久司
光子 ご夫妻



久司さん（八一歳）と光子さん（八一歳）のお宅は酒田市の特産である刈屋梨を中心に水稲・小菊などを、息子夫婦とお孫さんの三世代で栽培しています。現在、お二人は世代交代して経営の第一線からは退いています。が、農繁期には家族総出で行っています。

久司さんは一〇歳頃から農業に従事し、農業歴は七〇年以上にもなり、今でも体を動かしている方が落ち着くということでした。そのため、お孫さんに「今日の仕事は何かあるか」と聞くことで、一日がスタートするそ

うです。

光子さんは持ち前の気さくな人柄で、長い間梨直売所の「看板娘」として活躍。そして、若い頃の病により耳が不自由になった久司さんの耳となり、家庭を守ってきたそうです。

代々器用な家系で育った久司さんはものを作ることが好きで、若い頃は大工なども経験し、趣味も木彫や水墨画など多彩。木彫では大黒天や恵比寿などの七福神のほか実物大の馬も彫り上げたことがあるそうで、作業をされていて気が付くと夜中になっていたことも多かったとか。木彫・水墨画ともに作品は本格的で、展覧会で連続入選するほどの腕前だそうです。

健康の秘訣は「体を動かすこと」「友だちと話をすること」というお二人。これからも夫婦仲良く頑張ってください。

（村上淳子
委員）



短 信

平成二五年度酒田市
農作業基準賃金について

平成二五年度酒田市農作業基準賃金は、一月開催の総会で決定予定です。基準賃金の表は、決定後に市ホームページに掲載します。また、五月に「きらり」春季号といっしょに配布します。

「農家の経営と生活に役立つ
全国農業新聞の購読を！」

発行 毎週金曜日（月四回）
購読料 一ヶ月 六〇〇円

「農業者年金に加入しよう！」
老後の生活がっちりサポートする。農業に従事する方なら広く加入いただけます。

【農業者年金のメリット】

- ①少子・高齢化時代に強い積立方式の年金！
- ②終身年金で八〇歳までの保証付き！

③保険料は全額社会保険料控除！

④手厚い政策支援！

保険料に国庫補助も！
年金・新聞のことは、農業委員会までお問い合わせください。

祝 酒田市農業賞受賞 土里夢の会

今年で活動20年となる土里夢の会が酒田市農業賞を受賞しました。

農村女性海外研修に参加した女性の皆さんで結成され、福祉施設への花の提供などの「花いっぱい運動」や小学校の田植え・稲刈り体験などの「食農教育活動」に積極的に取り組まれた功績が認められたものです。

これからも酒田に明るい花を咲かせて、農業の振興と発展のためにがんばってください。



酒田の“旬”を食す 冬



「食の都庄内」
親善大使
レストラン ロアジス
グランシェフ
太田 政宏

空は鉛色、海は^{おおしげ}大時化、外は地吹雪、庄内の雪景色だ。

寒鱈のおいしい季節がやってきました。酒田で水揚げされる鱈は、身は良く締まり、白子はプリプリで真っ白。他県から入荷する鱈よりも数段おいしい！

さっと霜降りにして刺身にしてもよし、鍋にしてポン酢で食べてもたいへんおいしいが、さて洋食にするには？冬野菜とともにムニエルにしてはいかがでしょうか。あっさりとした鱈の身と白子のほくほく感が楽しめます。



鱈とダダミのムニエル

鱈とダダミのムニエル

材料（4人前）

- ・鱈の身…80gを4枚
- ・ダダミ…60gを4ヶ
- ・パセリ（みじん切り）…少々
- ・赤ネギ…2本
- ・白髪ネギ…少々
- ・サラダオイル…30cc
- ・ワインビネガー…40cc
- ・バター…60g
- ・パン粉（こまかい物）
- ・卵
- ・粉

トマトフォンデュ用

- ・トマト…1ヶ
- ・ワインビネガー…小さじ1杯
- ・オリーブオイル…大さじ1杯
- ・塩・コショウ

作り方

- ① 鱈は少し塩をふり、1時間位おき水分をふきとっておく。
- ② ダダミは60g位に切りわけ、湯に塩、ワインビネガーの中でさっと湯がき水気をきっておく。
- ③ トマトの皮をむき種を取りのぞき、5mm角に切り、塩・コショウ、ワインビネガー、オリーブオイルを入れ煮つぶす。
- ④ ②に塩・コショウをして、粉・卵・パン粉（こまかい物）をつける。
- ⑤ ①には塩・コショウ・粉をつける。
- ⑥ フライパンにサラダオイルをひき④・⑤を入れて焼き色をつけ、230℃のオープンで約5~8分火をとおす。
- ⑦ 赤ネギは水、ワインビネガー、塩で煮て最後にバターを入れる。
- ⑧ 白ネギで白髪ネギを作っておく。
- ⑨ 赤ネギを皿に盛り、鱈を盛り、ダダミをのせ、トマトフォンデュをのせ、パセリのみじん切りをのせ、ワインビネガーをかける。
- ⑩ バターをフライパンに入れ焦がし、⑨の上にかける。白髪ネギをかざる。

新しい年を迎え、気持ちを新たに、これからの農業経営と村づくり、そして春からの作業計画を立てたいものです。

今、食料自給率向上や農作物の安定供給を目指して、天候に左右されない植物工場も大規模に研究されていますが、私たち農業者とは一線を画したものと受け止めています。

政治体制も新しくなり、TPP問題も国としていよいよ結論に迫っていくのでしようが、日本の農業を支えている農業者たちが、今後も力を合わせて農業と地域づくりを継続できるような農政を切に望みます。農業の衰退は日本の美しい自然環境の荒廃にも直結してきます。

最後に、休耕田等の所有者である農業者の皆さんにお願いです。荒廃した農地を元通りにすることは至難の業です。農地としての原型を維持していただく農地管理を、本人はもとより、地域ぐるみでぜひお願いしたいと思います。

(一六)

